

昭和三十六年十二月二十八日招集第四
第四回市議會定例会之議錄

館山市第四回市議会定例会々議録(第四号)

昭和三十六年十二月招集

十一月二十八日(木曜日)

議事日程(第四号)

第一議案第一〇〇号 館山市市税条例の一部を改正する条例制定について

第二議案第一一七号 館山市衛生処理場設置条例の制定について

一、本日、会議に付く事件

議事日程に同じ

出席議員 三一名

欠席議員 三名

一、番 川名 房吉 二、番 北山 茂雄

三、番 鈴木 市藏

午前二時三十分開会

議長(鴻貫壯作君) 本日の出席議員数三一名、これより第四回定

例会第四日の会議に開会いたします。

本日の議事は前会議に引続て議案第一〇〇号にかゝる

審議に継続いたします。

三四番一松本藤太郎君、一館山市の議会としてどうこうということ

はございぬわけですが、ござるうは内容の本文下とるか

但書下とるか、こういうことにならぬわけではございますが

市長さんにおかれ下とるかという点についてお尋ねいたし

ます。それはおうまうに今までは現行は国税下所得

税下基礎としてとるものであつたのです。来年度の

うは新法によると所得総額を基礎とするというところに

なつわけでございます。それによつて現在やつております

ところの〇・一とどのような徴税の総額へういたしますか

どのような違いがでるか、相当増収があるかどうかとい

かと考ふるわけですが、それから第三点として市民
税と県税と合せて今まで徴収してゐたが、やはりこれ
もそのようにやるのが、さうに現行では所得税を要する
に国税に關係する均等割というのがある、これも県税、
市民税とやゝてゐるが、こういう点もやはりどうなるつか、
以上四点を尋ねます。

市長田村男君 このたび行ないます税制改革につきまして
は政府の命ずるところによりまして、館山市だけでどうこ
うするということではござらないのであります。従いまして
市といつても、これは今回の税制と実行しようとする
のであります。但し書下とらないう方法にも、こ
ゝろあります。この但書下とらないうことと下いふ一説
明すれば長くなりますが、結論的にいふと、館山
市、税金が上るはずだということではございまして、館

山市は本當はつどのう手だをりてエグてもういいい
 わけでありまして市民の生活状態など下察知いろ
 して税金はなすべく少くし施設も多くするといふ市
 の方針に基きまして旧書下とらないいことになり
 思ひます。従ひまして新税法によりまして館山市の
 経済が楽になるかどうかといふことは一つも楽になら
 ないといふありまして下手下手すれば昨年の税金より減
 るかも知れないといふのが現状でございます。
 ところがなす金持の人が新しく家下建て、くれり
 大々デパートの進出によりすることによつて新し
 今更で税金の対象にならなかつた新しい自然増とい
 う税金が入ることもありますが幾らか息がつけるとい
 う状態にならうかと思ひます。でありますので結論的
 いうと去年よりか幾らか自然増によつて税金も多く

あと四日で三十七年度一月一日付ですって基礎になると思ひます。それがそういふ手続上例年と違つて大分遅れるうぢやないかというところ懸念されるのです。それがそういふものは今進んでおりますか。

三十七年度のこの税に於てはやはり申告が早くてはいけなひと思つたので、それがそういふことはどうなつておりますか。

。税務第一課長高木哲三君は、均等割は今年も三十七年と同じでござります。

調査の方は、いゝまや、とあります。申告の期日も三月五日までには全部終了予定でござります。

専業関係は全部終了して、現在商業関係の調査を行つております。それも大体三月二十日までに終らせ、予定をしております。

従来の所得税や県民税に比べて細かくやつております。

かう將來に示せる見込みでござります

三四番(松本藤太郎君) そう——ますと市民税の納期は四回
あります。この納期に支拂があるかというが

それへもう一つ、今までは相当な生活をしてゐるのだが固
税を払つてゐるに従つて市民税を払わなければならないというふうな
のが現実にある。そういうものも今までは所得税を基
礎としておつたから、これも知れませんが今度税務
一課——では実際の内容の調査に入らなければなら
ない、そういう点についてよほど厳密に調査、要する
は給与所得、山林所得というふうな表面に表われる
ものという、のですが、そうでなく、わづなひ収入のあ
る人が実際に税金を払つていない。そういうもの人
間も、まあわけでありますが、その点今後どのよう
にやつていくのか、當る、考へて聞つてもういいとい

思います

税務第一課長(高木哲三君)に答えたいと思います

納期は今まで通りでございます

実態調査でございますがこれは果てもやっております
すが果の実態調査もあつておりますので市税目
をやつてあります 初めのころとでなかく実態下
つめをせんがいろいろ保が苦しくなるべく公正に
課税の出来るようにやっております

三四番(松本藤太郎君)やっておりますが新年度から
は市民税が所得と対象にするようになるその点下
最重に公正にやつてもらうといふことと、私はいつて
あるわけなんです それに對してやつてますので
びく新年度から違つてくるのだからそれであつた
方の考へ方と、むしろしたわけですから やつてますでな

く今後やるように、ありしにもう下も、ともういい
それと面々々々々、

市長(田村利男君) このことについて、すでに一月頃
のう税制改革のあることと、予期いろいろして別に
臨時職員という、各部落に、調査を続け
て現在や、とあります。今後、最も重要な覚悟を、
います。

議長(堀貫壮作君) 議案第一〇号討論省界原案通り、可
決、よろ、す、と御異議ありませんか、

(「異議、ない」と呼ぶ者あり)

議長(堀貫壮作君) 異議、ない、と認めます。

よ、て同案の原案通り、可決、よろ、す、

この際、議事日程について、おけ、あり、よろ、す、

本日市長より、議案第一二七号が送付、され、

これ下本日、日程に追加し直ちに議題といふます
に御異議ありませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(過半壯作君)御異議ナシと認めます。

よって日程は追加されましう。

議案第一一七号下上程いしう。

(書目 記 朗 読)

議案第一一七号 館山市衛生処理場設置条例の制定について
厚生課長(伊藤幸太郎君)議案第一一七号につまして

御説明申し上げます。

本議案は去る六月に決定されし衛生処理場の場所
下変更いしうして決定しないうこととごさい

ます。条例の変更でございす。六月の決定条

例は館山市の条例第三〇下もろしうて送付されて

あるのでありましてけれども、これに今回廃止というわけで、
て新に衛生処理場設置条例を提案したのでございます。
まず、先に決定するに大買地先につきましては、
は諸般の状況でございます。その後いろいろ地え関係
者等と折衝いたしまして、その折衝も進みます。
と、これにつきまして谷藤原地先の部落民のほう処理
場は合々して、畑地灌溉条例とせの当位四直
にという強い陳情がございまして、この市といつて
ては両者比較検討いたしまして、諸般の状況から大
買地先の関係に変更いたしまして谷藤原地先に設
置しようと考えたわけでございます。この点
につきまして今回の条例変更にお願いたすわけでは
ございません。よろしくお願いたします。

市長(田村利男君) 市長から一言議会の皆様へ申し述べます。

去る大月に大買地先に決定してわけでございす。が
 当時厚生省の方へ意思決定する必要な迫られま
 て今へう考えれば十分の調査がござるか、大あまりに
 議員の育様に大買地先に決定し願うてしまふも変
 更し願うというぶざまなり方には、大わけでござ
 いす。てこの点市長としてまことに不徳のいひす
 と。うでございす。当時厚生省が館山市は果し
 てやる意思があるのか、起債の都合があるか、や
 るやう早くやるかという意思でけりませうという通告
 に接して、大買地先として決定してか
 らいろいろ折衝してみわけでございす。がその
 後困難な事情がござりて変更せざるやむ
 なまに至る大わけでございす。よろしく御審
 議のほどをお願い申して参ります。

三五番(里)川佐太郎君　ちよ、と尋ねいまして、
で決定して、と下変更するということとは市政に於いて
は重大な問題だろうと思ひます。いねゆる朝令
暮改ということはこのことだと思ひます。決議下
変更するということとは甚だ不名誉な話だと思ひま
すが、そこで大體に對して、こういう工作して、か
ういう事情で変更せざるを得なくなつたか、という点
に答へていきたいと思います。

助役(小)武男君　はい、里川議員からの御質問でござ
います。最初議会で決定したのと、更に変更するの
は不思議ではないか、この点に つまづいては、はい、ま
市長から答へていまして、よく、まことに不明である
ということに尽きるところと思ひます。私どもも、――て
は、いろいろ、決議の線下尊重することには、当然でござ

をいいます。――あるいはいろいろな事情のために変更
 せられ得ない。な。な。ということは、これはあり得る
 ことだろうと考へます。一つのこととて変更してしまふ
 なあとで変えるというところにあります。そのために
 影響を及ぼすところがあるわけでございますが、まだ
 決定しない前であつてどうしてもやむを得ない実情が
 発生した場合に、これは行政措置として変えるこ
 とは当然と思ひます。――今市長の申しさすところ
 うちにまことに不本意であつた、な。というところにつ
 いては、申しあげて通りでございします。

第三点、な。な。変えられた詳細なその理由というこ
 とでございします。これは、つゞつては、主管課長から
 抽象的に申しさす。それが、これはいろいろ事情があ
 り、な。でございします。まず第一点といふ――つゞて、

地正の非常に海岸^際接してゐて精神的にも
非常に沿岸漁業の障害があるという事
それへより更に館山湾の一角である為に館山湾下眺
めといわゆる視光地としての性格を生み出してゐるとい
うことの一つ。その地若干ございますが大きくみ
ればこのいう点に つくるのでは可いと思ひます
いろ／＼前後しますますがこれは理屈かういふ
いろ／＼説明する点はあります。この一なるがうしろに
て皆さんに納得させるためにはこの継続年度である
今年度と明年年度にかけやる仕事に間に合ひなく
なるという一つの大なる問題が内蔵してゐるわけでは
ありません。さうなると後あそこの委員会から答申が
こゝにまゐりて私も検討してあそこの設定してゐる
ありますけれどもその時の方としては海氷処理

下やゐ。さういうことば一応の考へ方であつたわけでご
 ゐいます。その後その面についていろいろ厚生省とし
 折衝、週程におきまして海水処理は好ましくない
 全園でニコロケ所ごひいます。そのうちで海水処理す
 や、といううのは一ヶ所のニヶ所でごひいます。と申しま
 すのは海水でもって処理してももちろん不完全な
 水は流れるわけではないうです。が厚生省の基準
 によつて尿処理、精製から考へますと一行程めか
 して下というわけではないうです。がサニブロー槽がな
 くては済む処理場ということになりまして厚生省
 の奨励してある完全な処理法から欠格条件の若干
 でさう。でさうなう海水処理でなく淡水処理
 でもってやつてもらいたい。さういうことと技術
 らみで私どもの座標と申します。か気のくじりた

点でございます。これより含めまして今申しまして、
たゞうに地ええの折衝下敷同行、ておりますりけり
いかにしきれうに解明して皆さんに了解を得る
までには相当な日程下要して今回の施設に納め合
ひたいということが大々の変更になり、理由でございます。
以上簡単でございますが御答申を申し上げます。

二四番（飯田義男君）市長さんに伺います。私は過去先
進地であつたころから小田原、岡崎、熱海各所下し尿
処理場についで勉強して参つたのですけれども、
この市に参りましたのもこの処理場という問題は非常
に苦しいところがございます。又、総合して申しエ
がうれることは、当市の将来完全な衛生処理をするが
ために下水道処理が完全な方法である。従つて私ど
もは現在のような処理場下作、ておろけりともやは

り市々中心であるべき箇所にも下水道下完全に
整備してその末端で終末処理をする、こういう
こと一番適当である、この計画下ないと将来に
わたって禍根を残すというふうな結果になるであらう
こういう意見下出して参ったのでありますけれども
館山市においてもそういうこととが一番考えられる
と思ひます、いつの私がこの問題について市長に質
問してところが館山市の状態では二十年は無理であ
らういうことと了解してしまつておられまして私はこ
ゝ数年の間にはすむにさういふ方向に踏切ら
うけれどもこのではなからうかと思ひます、館山市は
将来さういふことと了解案として本當に完全な衛生
都市として美しい町として安全に処理するため
にはやはり下水道処理をしてその末端に処理場を

作る、こういうことば一番適當だと思ひます。そうい
ふの意味で今度、谷藤栗地にはちよつと不適當
な部分があるかと思ひます。そういふことを考へて
市長は果して將來に至つても決してあそこに作つ
て、~~下~~下残さないかどうか、この問題についてはいささ
か、~~と~~と御回答下願ひます。

市長(岡村利男君) 館山市の現状といふことは下水道の
問題につきましては、当分一五年一五年手がつけられな
い、——いいていえば私には力な及ばないといふことと下申し
エグが、下得ないわけでございます。こゝろ考へる次
第でございます。

二四番(飯田義男君) それでは正切にて御質問申しあげま
す。現状の状態として、完全な下水道処理はでき
ないといふことですが、將來はやらなければなら

はいという考とがあるかどうか、

市長(田村利男君)將來やらなければいけない、衛生都市
と——これはあやと思ひます。

三四番(飯田義男君)そう——まずと現在から理場もこゝに
出されておる場所もそれらの考之下考之合せて作り
たいということであるがそれともそれ以外に考へるある
のか、

市長(田村利男君)將來のことはもうしばらく研究さして
たいと思います。

三五番(里川佐太郎君)先ほど聊役へらいろく説明があり
ます——大抵もちろん市長が私の不徳のいたすところだ
といわれ、ばいうところはいのちすけれども観光に
云々漢業に云々ということは決定する前にするに
ゆかてある。私その答弁は納得する、変更する要

きは理由とは申されない、それかう教回とい、ますすが
こーの重要な問題下教回位でやろうということか
すでに私はあまい考とじゃないか、そうい、た面を非
常に老とが努力が足りず、その面ではないか、こう思
つてゐます。

次に神戸地区にも、そくて一月かそこを十分納得す
る機会下とす、するといふことは神戸地区民下敷
高さの、結果に、そのまゝ、突入するといふ
ことは甚だ遺憾で政治は私は人の和が根本だろう
と思ひます、そう、た意味においてもう、誠意
下もつて、神戸地区民下納得させようか、
関くともろくより、す、と、こゝも市長助役の誠意熱
意に動かされて皆承知、と、こゝの例でいふます、
ところ、そのい、た、点で僕は神戸市当局には欠陥があ

「大と思ふが、その点どうお考えになりますか」

助役(小沢)男君 へい、いまの御質問でござりますが、こういう
こととやるの、一回か二回ではござらないか、普通通りや
い、こういう御意見のようですが、今回の肉題の藤原
にも、まゝくる根本の考え方は、地元の熱意がある、とい
うことば、下人まゝな肉題でござります、さうに、今
で、放流して捨てる、まゝもの下利用して、一部灌漑用
水に使う、という、こととあり、そして、い、かえ
り、は、館山市、木更畑、が、南拓される、のは、いいか
らう、という、支持、下含めて、くらう、はい、ま、す、れば、一石
二鳥、と、申、す、す、か、さう、い、な、さう、な、考、え、方、と、あ、る、わ
け、で、ご、さ、い、す、て、これ、が、放流、した、もの、が、非常、に、農
耕地、に、天障、がある、と、か、ある、いは、今、申、します、こと、が、下
流、が、不、愉快、だ、と、いう、こと、と、いう、て、最初、は、全部、下、に

叔虎下るといふことで進めたいのですが、今回の場合は
逆にございまして全部にエスカル。そうして農地造
成にする。これは館山市全体として考えまして、今
まで灌漑すべき農耕地は非常に多いわけではござい
ますが、これには相当地元の負担もありまして、果
實貴、市費もかゝりますので、思ひます。もうい
ふところが非常に多いわけではございまして、この
ようにして、この際やむというところの気持は私どもも、その処
理も設置とにうに合せて、非常に大きな有力の一
つ、条件に評価されるわけではございまして、地元の
下流の関係はございまして、これは下流の方には、
いかにあ合ひいまして、皆々人の意向、下流私ども
も十分研究いまして、おさわけではございまして、本
目提案するといふことにつまして、これは三五番議員のおし

やるやうに何だか物足りないうちでございましてすけれども
 も皆暇の事情で青王研究討議の結果市として
 この際このようにもございましてもうねないことには
 館山市全体も困るやうな元々の要望にも応えようことになり
 ますけれども今後につきましては後日の問題として
 直接関係のある元々の了解ということにウエ
 イト下大まか考えまして一応この案に決定してみても
 るわけではございません もちろん下流の代表者の方へ
 も一々書面でもうなるのかうという回答はいつて
 おりますけれどもこのやうなやりかたでは細得て
 いないと思ひますけれども今後につきましてはま
 た市長と相談いたしましていろいろ皆さんの御意見
 によりましてやるべきことはやりますしもちろん
 この討議について障害が起るものということが起る

場合には市というところではあうゆゑ努力を捧げま
してその障害除去にはやゝてやる義勇があると思ひ
ます。そのような観念から申しまして一応本日提
案になつたゆゑでございまして、で反対の方にはま
とに申し合ひたいと思ひますけれども今後について十分
考慮して、かような市は考へてゐるゆゑでございまして
議長鴻貴社作君、賛同中をございまして、暫時休憩いた
します。

午後 零時二分休憩

午後 一時三分再開

議長鴻貴社作君、午後のお席議員数二十九名休憩前に引続
き会議を閉じます。

多少減つてくるということは明らかなである。私はこう
思ひます。従つてその点下流に耕地をもつてゐる農
民は非常な老得するものは無理もない。こう考へます
が、この点について。

それへは清浄野菜栽培地としてよく神戸地区が
ローズアップされて参りました。これは好する不安
下もつていふということはなほと清浄野菜栽培地に
一承処理をせられたいといふことはもちろんでありま
すけれども、それへはまゝ清浄野菜栽培地の中心
でありますところにも、さういふことはいやがり
地元にとつて不利だといふことは、さうしてありま
す。清浄野菜栽培地は各地にございまして、おの
ずから競争してゐる現在、それへ逆宣伝するわけは
場合に大なり小なり影響を及ぼすといふのは考へられたいので

あります。その次に市長さんは浄化した水は絶対に
下に流さないと説明してあります。しかし天変地変
その地にあってどういう事態へ起るかわからぬ。そう
いふところには汚物へ下に流ればせぬかといういう
ことと先想してあります。確かにこういうことも
絶対にはいとは断言できないと思っております。この
ところ市はこれに対する絶対の責任下もって将来
地元、御達のいく処置へできるかどうかというい
うこと下は、よりしてよく必要があると思っております。
次に感情の問題でございますが、あそこには処理場
が作られては神戸地区の玄肉口である。従って私
どもは非常に将来、発展して先導するし、そこで
集いあするともいいやだ。こういってあるようであり
ます。私も地元の人として確かにその点はその通り

だと思ひます。例として申しゝが、すめばいかに山海の
珍味と自分々方、前々でござれど、もしその
場にある奥いお人々と奥々、なすうばせ、へくの
食欲を減退して、おいし料理も、うすくなるので
あり、さう、さういふことと、若々々と、長い
間神戸には清う、はい、ゆるる農業者、帯として
養育して、まゝと、ろが汚る、れ、という感情的な被
害というものも、ある、いかに、せ、い、ものがあると思ひま
す。さういふこと、に対して、市長さんは、この際、確
かに地、又はさういふもの、被害者である。炭、て
将来、地元の要求について、可及的すみやか、に、話、合、い
の場、でも、て、逐次解決して、いく、さうして、納得、の
いうふうな、位置、で、お、誠意、下、も、て、やる、という、こと
が、この議場、において、断言、できる、か、と、う、か、その、点

たついで市長さんじきく、御回答下願ひいさしま
す。

。市長(田村利男君)飯田議員のおしやることにすること、地元市
会議員といさうしては、いさうとも、御発言に承り
送りまして、市長におきましては、飯田さんのおしやる
べき点、かつきましては、今後十分誠意をもつて、地元の部
落民と話し合うという、こゝと、下におき、い申し、より、次第
におこひいます。まず第一点におきまして、水は流し
ません、しかし、その、肉、東大、震、災、の、よう、な、天変地異、
によつて、被害、が、受ける、こと、も、あり、まう、よう、あ、や、い、
一人、位、の、大、な、な、す、に、が、破、れる、こと、は、い、い、と、は、い、え、ま、せ
ん、し、かし、その、場合、の、こと、に、お、き、ま、う、て、も、それ、が、
もし、も、所、の、富、あ、や、い、は、下、流、地、帯、に、及、び、す、影、響、が、あ
つ、た、とい、さう、す、れば、市、は、真、先、に、その、責任、を、負、ひ、い

金を作りまして臭くさいように努めました。また
必要があれば場所を移してあげたい。建物と面
積にずれが臭くさい。感じをわけるわけがない
です。で誠心誠意そのように努める。資格がない
です。以上を約束申し上げます。

三回番(飯田義男君)大事なことだからでございま
す。あそこは海軍が掘った井戸がございまして、そ
の井戸で利用すれば全然下に被害はないという考
え方があるのも知れませんが私はやはり水を下から
吸収すれば上へ減っていく、こういうことがあると思
います。これは洲の宮内への問題でよく佐野地帯
それ以外のところはやはり全然被害はないというこ
とは思います。これは当然灌漑用水の解決という

ことは将来市へや、ていかゞ行けばならぬ問題で
ありまして、これに機会としてこれに対する絶対的
な配慮を市長は考へておられるか。

市長 田村利男君 一番大事は水の問題を忘れておりまして、
それがむしろ今後し尿処理をやめるために水不足す
るというふうなことがあつた、さういふのもろろのことし
尿処理で便がすくても下流で水が足りないという場
合には平次計画でもよろしくて下流の水が足りない面
につまづいては技術者と研究いましてして不足のないよう
に努めますと、お約束申してはおります。それで洲の空
間の下流に水を流してレリーフ装置をもちまして
水を引きますから高い山のエにさげてさうしてレヌス
マの下作、さうな、清浄野菜地帯への水をひくこ
と、その秋から計画して今後にも実行するつもりであり

まずこと下みても市の城意がないというわけではな
いのでありまして今後も十分そのように努めたい。
このように考えます。

三田 飯田義男君 せんくわはって参ります。市長さん
の発言の中にももし被害がある、なという発言があるよ
うに述べたところがありますけれどもこれは客観的な問題
で市下らしい、と思います。まずあるというところが確定する
でありましてこれはあつた、市の子算というものが
限度でありまして、もうかう調査してある、なというところな
く、地元の現在という被害があるの、なというところがは
っきりとある、なで陳情してあるわけ、この問題が
よく人ば解決された、曉にはすみやかに地元の感情、下は
ふし、今までは、な、誠意、下地元にあらう、ゆ、面、で
尽く、吏、吏に現れ、て、い、な、く、こと、が、で、ま、る、か、と、う、か、

その点もう一回。

市長(飯田義男君) 永はその点につまづいて議決するの望目か
うでなく遇ふに日かうやゝである。誠意を示してつくりで
ごさい。それでそれ以上にお輪下へけてやな。このこと下
申してあげるわけでごさい。それで、あの地区の水はな
いということ下承認してふり。それでこのこと如何にか、
わう下すに農林省の博士下つれてきて二週間ばかり
前に現地へみてわけでごさいます。かように市として
市眼目の赤と方下もら。それで被害がある。それから、わう
下すで始めたい。かことでごさい。それで決してや、とい
ないわけではごさいません。で御了承の程下願います。
三回番(飯田義男君) 市長の発言はよくわかり。だが、た
その誠意が地元に足りていないわけかどうか、一段の
誠意下願いしたいと思ひます。

この問題について私は市長さんもいろいろ発言を
なすべくあるまで地元へ要求に対しては将来可及的す
みやかに希望がかなうとてやるということと下付節条
例としてこれを導き出すれば決議していただくと思
うのであります

議長 鴻貴壮作君 本案に対する御質疑はなほ多
くあると思ひます。この辺でも、て質疑を打ち切り
たいと思ひます。さういふ御意見はございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(一) 番議員佐野信君、一五番議員嶋田繁君、二四番議員飯田義男君、三一番議員田村喜兵衛君、三五番議員黒川佐太郎君(退場)

議長 鴻貴壮作君 御異議なしと認めます。
よって質疑は終ります。

議案第二十七号討論有異原案通り可決ハス可決ス
御異議ニ有イマセンカ

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壯作君)御異議ナシと認めます

よ、て議案第二十七号は原案通り可決されました
以上をもちまして第四回定例会に閉会いたします

午後一時三十分閉会

昭和三十六年二月二十八日

右会議の次第を録し、に署名す

館山市議会議長

佐々木 水作

司 署名議員

田村 喜兵衛

同

吉田 勇太郎

